



白山の白山神社と森

えている。延命山の山号があるように地藏尊が本尊で御丈三〇・五センチの座像が寺院に安置されている。その傍に、修験の祈禱に拝んだと思われる御丈二四〇五センチの不動尊がある。

下方へ通じる交通の要衝に当たっているので発達しているが、この村の起源はあまり古くない。現在建築家として大をなしている関与市宅の白山定住が最初で、明治八年というから、他はその後の来住者で、三本松と共に北会津村の小さな一植民地のような観を呈している。勿論文化六年（一八〇九）の新編風土記には、端村としてもものっていない。

これに対して、その白山清水を利用して開村した中里村や石原村、さらにこれが田村山村の古墳時代に関聯して考えると、この附近の開発は相当古い。村にある延命山徳善院は、古くは恐らく修験ではないかと思うが、真観という人の開基したのが、大永五年（一五二五）と伝



白山沼、大川扇状地の最も大きな湧水地